



果樹類のナシヒメシンクイの防除
すもものスモモヒメシンクイの防除に

害虫防除用
交信攪乱剤

ナシヒメコン[®]

[農林水産省登録 第22781号] [オリフルア剤 ®信越化学工業(株)の登録商標]



交信攪乱剤 ナシヒメコン[®]

オリフルア剤

▼成分の種類および含有量

(Z)-8-ドデセニル=アセタート……87.5%

安定剤等……12.5%

▼薬剂量…100本当たり23g

包装形態…50本入りアルミ袋×60袋/ケース

▼人畜毒性…普通物^{注1}, A類 ▼魚毒性^{注2}

注1) 毒劇物に該当しないものを指している通称 注2) この登録に係る使用方法では該当がない

ナシヒメコンの特長

- 性フェロモンの特異的作用によって対象害虫の交尾を連続的に阻害し、害虫の発生を抑制することを目的としています（直接の殺虫作用はありません）。
- 殺虫剤への感受性が低下した害虫にも有効です。
- 天敵に対する影響は非常に少なく、人畜毒性もほとんどありません。
- 本剤の有効成分は微生物などにより容易に分解されるため、環境にやさしい防除剤です。
- 殺虫剤の散布回数の削減が期待できます。
- 作物への残留も心配なく、作業者に対しても安全です。

作物名	使用目的	適用病害虫名	使用量	使用時期	使用方法
果樹類	交尾阻害	ナシヒメシンクイ	50～100本/10a (23g/100本製剤)	成虫発生初期から終期	ディスペンサーを対象作物の枝に挟み込み、または巻き付け設置する。
すもも		スモモヒメシンクイ			

使用上の注意事項

本剤は、ナシヒメシンクイおよびスモモヒメシンクイの各成虫の交尾を連続的に阻害し、交尾率を低下させることで、次世代の密度低下を目的としています。したがって、これらの対象害虫の成虫発生初期から収穫期まで連続的に、できるだけ広い範囲で使用してください。

対象害虫が高密度に存在する場合には、状況に応じて天敵に影響の少ない殺虫剤を併用してください。

本剤は樹木などに巻き付け、対象地帯に均一になるように設置してください。また、標準的な使用量は10アール当たり50～100本ですが、立地条件や風向、傾斜などによっては効果が振れる場合がありますので、諸条件から判断して、必要な場合は使用量の範囲内で、特に周辺部に多めに設置してください。

発生初期からの使用は100本、ほかのフェロモン剤への追加処理として使用する場合は半量（50本）が標準的な使用量ですが、諸条件から判断して、必要な場合は使用量の範囲内で、多めに設置してください。

本剤は飛来した既交尾雌には効果がありません。したがって、特にスモモヒメシンクイを対象とする場合、寄生樹種を移動する場合がありますので、発生源を確認して使用してください。

急傾斜地、風の強い地帯など、本剤の濃度を維持するのが困難な地域では設置を見合わせてください。

外装のアルミ箔袋を開封したまま放置すると有効成分が揮散しますので、必ず使用直前に開封し、使い切ってください。やむをえず残った場合には密封し、5℃以下で冷蔵保管してください。

本剤の使用にあたっては、使用量や使用時期、使用方法などを誤らないように注意し、特に初めて使用する場合には、病害虫防除所など関係機関の指導を受けてください。

● ラベルをよく読む。 ● ラベルの記載以外に使用しないでください。 ● 本剤は小児の手の届く所には置かないでください。